

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第13巻 第2号 (No.39)

発行日 2018年12月1日

仲間と交流し、絆を深める行事

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

目次:

仲間と交流し、 絆を深める行事	1
療育プログラムのようす	2・3
コラム：武蔵野東の 子どもたちとの出会い	4
ホームカミングデー	4
教育センターからのご案内	4

10月末に行われました個人懇談では、地域の中でくらすことの難しさを感じている方、プログラムを受講し成長を喜んでくださる方など、それぞれの思いを聞かせていただきました。今年度の後半を、保護者の方々や子どもたちに寄り添い、その成長をもっと促していかなければとの思いを新たにしました。

個人懇談が終了した翌日の日曜日に幼児・小学生のファミリーデーが行われました。それぞれの家族が三々五々会場に集まり、はじめはぎこちない関係の中で、レクリエーション活動を通して少しずつ周りの家族と打ち解けていく。笑顔がこぼれ、困っている子ども周囲の方々がいたわりながら話が弾んでいく。その話の輪がだんだん大きくなり、それに続くコンサートで一体となっていく。その様子を見ていると、センターが目指す「一つの家族」としてつながりあえる関係がそこにあるように感じられました。子どもたちと保護者が手をつなぎ一体となって、体を動かしながらつなげていく。この輪がもっともっと広がるように、多くの方々に参加していただけるようにと願わずにはいられない。日頃の苦労を忘れ、家族がともに楽しむこと、同じ思いを胸に秘めた仲間が交流し、絆を深める良い機会となったのではないかと考えています。

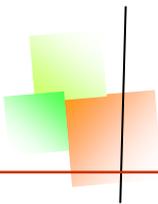
武蔵野東学園は、創立期から学園に集った方々が一つの家族となって、子どもを中心に保護者・教師が三位一体となって作り上げてきた学園です。ファミリーデーに集った方々が互いに語り合い、子どもたちの笑顔と保護者の方々の温かいまなざしがそこにはありました。学園に連綿と受け継がれてきたその精神が、センターの中にも根付いてきていくことが本当によくわかりました。

教育センターが実施している行事は、保護者の方々の横のつながり、縦のつながりを常に大事にしながら企画しています。ファミリーデーだけでなく、例えば、季節特別プログラムでは子どもたちが学年を超えて交流する時間や、同じテーマで年齢に応じた学習をする時間もあります。また、保護者講習では同じ学年でのグループ交流や幼児から中学生までの縦割りでのグループ懇談が行われます。「違う年代の保護者の方々から話を聞いて、大きくなった我が子の姿を思い描くことができた。」「今の悩みが良い思い出にかわる時が来ることを聞いて心が軽くなった。」などの保護者の感想を聞くと、センターでの活動を通じた交流が絆を深めていることを感じます。さらに、現在受講中の方たちだけでなく、センターを巣立ったOB・OGが集うホームカミングデーへと絆をつなげていきます。このようなつながりを大切にした企画をこれからも続けていきたいと強く感じるとともに、一緒に同じ時間・同じ空間を子どもたちや保護者の方々とお過ごせることをとてもうれしく感じています。

子どもを育てることは一喜一憂の毎日だと思います。そんな時、センターに集う仲間がいるのだと、子どもたちにも保護者の方々にも感じていただけるセンターであり続けたいいつも思っています。「センターに来るとほっとする。」「またチャレンジしていこうと思えるようになった。」などと思っていたらこんなうれしいことはありません。

子どもたちはもうすぐ冬休みを迎えます。クリスマスあり、お正月ありと行事が多い年末です。健康に気をつけて思い出をたくさん作ってください。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

リズム教室 自分の意思で体の静と動がコントロールできるようになることを大切に活動しています。後期に入るとぐんと集団がまとまりを見せ、全体的に動く時と止まる時の意識がついてきました。9月から取り組んでいるジョイントマット



リズムに合わせて両足ジャンプ

を使ったリズム活動でも、太鼓の合図を聞いて動いたり、指定された色のマットの上で静止したりできるようになり、目、耳、体、頭をフル回転させながら楽しく取り組んでいます。(高橋)

SST教室 5・6年生は、先生を相手にして、5秒以上会話が途切れずに何分間会話を続けることができるか、その長さを友だちと競い合いました。友だちの質問を参考にして、同じ質問してみるなど、競い合うだけでなく互いに学び合える場面も見られました。会話の時間はどんどん長くなってきており、5分間以上途切れずに続けられることが多くなってきました。(大澤)



先生に質問をする

コンピュータ教室 土曜日の教室ではメールサービスの使い方を学んでいます。メールの作成・送信の仕方、受信メールの開き方などの操作方法以外にも、メールのマナーを身につけることも目標にしています。宛名と署名を忘れない、あいさつ文を入れる、相手にわかりやすい件名をつけるなど、気をつけるべきポイントを確認しながら練習を進めています。(白井)



先生にメールを書こう

言語プログラム ある子どもと、ゲームを用いた言葉の表現練習をしました。ゲームは、カードに示された色の順番通りに相手より速く手持ちのカップを並べるというものです。相手にゲームのルールを説明をすることや、「うれしい」「くやしい」、勝った相手に「おめでとう」と言うことなど、感情を表す言葉の使い方を、楽しみながら自然に学ぶことができました。(浜野)



ゲームを楽しみながら

ダンス教室 花やタンブリンなどの手具を持って短いフレーズの動きを練習しています。タンブリンは叩くという動作が加わりますので、あたえられたフレーズを覚えるのに時間を要しましたが、反復練習により習得できました。何よりも「できるようになりたい」という気持ちが前面に出て、皆の一生懸命さに圧倒されました。並行して、発表会に向けた作品練習も頑張っています。今年度は「笑顔」がテーマの元気のよいダンスを披露する予定です。発表会は2月23日土曜日の14時15分からスカラーホールで行いますので、応援をよろしく願いいたします。(新堂)



タンブリンを持って踊る

幼児絵画造形教室 みんなの大好きな絵本、「まめうしのびっくりなあき」に出てくるさつまいもを作りました。おいもの形に切ったダンボールに、みんなの身長よりも長い毛糸を縦、横、斜め思い思いに巻



ぐるぐる巻きちゃおう!

きつけていきます。すると、世界に1つしかないおいもが続々とできあがりました! 「おいしそうだね」「おなかへっちゃったよ」の声が聞こえてきそうでした。(本田)

体育教室 中高生は膝を使い両腕を大きく振り上げ行う、全身を使った跳躍の練習に取り組みました。これまでに鍛えてきた成果もあり、平均で5段、最高で7段の跳び箱に両足で跳び乗ることができています。この活動は、跳躍時に全身で大きな力を一気に出すため、筋肉や脳にもよい刺激となっていることでしょう。今後は逆に小さな力を一定時間出し続ける活動にも挑戦する予定です。(鈴木裕)



ジャンプ!

幼児体育教室 幼児は前転に挑戦しています。回転時に両腕で身体を支えること、首や背中を丸めて回ること、最後にお腹に力を入れて起き上がることなどがポイントですが、何より前転の体験をできるだけたくさん踏んで、体が逆さまになったり、回転したりする感覚に親しむことに重きを置いています。どの子ども、友だちといっしょに「1、2のごろん!」の号令で回転することを楽しんでいきます。(鈴木裕)



まわる~!



【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

幼児 親子と年少は柿、年中はどんぐり、年長は栗といった、秋の製作に取り組みました。子どもたちに実物の木の実を見せると、触ったりにおいをかいたり興味津々です。「重たいね」「つるつるしてる」と感触を話してくれました。落ち葉に見立てた色とりどりの葉を部屋中に敷きつめると、子どもたちは大喜びで落ち葉ひろいを楽しみました。(諸橋)



落ち葉をひろおう

1年生 国語では「日づけとよう日」の学習を進めています。課題の定着につながるよう、効果音や音楽で日付や曜日について学べるスライドショーを作りました。「今日は木曜日、明日は？」の問いに「金曜日!」と元気に答えたり、「一日」を「ついたち!」と自信を持って読めるようになってきたりと、少しずつ生活の中で役立つようになってきているようです。(宮下)



きょうは、なんようび?

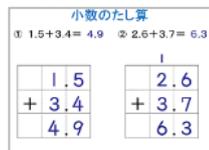
2年生 図工の時間に折り紙を使って、物語「お手紙」の一場面を作りました。国語で学習した单元なので、どの子も親しみをもって取り組むことができました。注目ポイントは、子どもたちがそれぞれで選んだ主人公たちの服です。「私のがまくんはこの服にしよう」「かえるくんの可愛い服ができたよ」などと言いながら思い思いの作品を完成させることができました。(猪野)



「お手紙」作品展示



読解プリントに挑戦!



小数点を忘れずに

3年生 国語で『ありの行列』を学習しています。内容の理解を深めるために、視覚教材を使って話の流れをつかんだり、「ありは目がよく見えないのに行列を作れるのはどうしてか」などと話のポイントを確認してから冊子を読んだりしています。子どもたちから「ありはおしりから液を出しているから行列を作れるんだ!」と声が上がリ、内容をよく理解することができました。(吉田)

4年生 算数で「小数の計算」を学習しました。全体に、答えに小数点をつけ忘れてしまう傾向が見られましたが、例えば 1.1+2.1 の場合、「答えは32ではなく、3.2!」などと声を出しながら、小数点の動きを強調したスライドショーを見ることで、小数点を忘れずにつけることを楽しく意識づけることができました。(久留)

5年生 体育活動の中でテニスボールを使った投球練習をしています。オーバーハンドスローでなるべく遠くまで投げられるよう繰り返し練習してきたことで、5メートル以上投げられる子どもたちが多くなりました。次はキャッチボールの練習を行います。まずはボールをキャッチすることを目標にし、担当者や友だちとのキャッチボールができるよう目指します。(藤本)



5メートル以上投げるぞ!

6年生 図工の時間に水彩色鉛筆を活用した絵画製作を行っています。鉛筆で手本を模写し、水彩色鉛筆で着色、水をつけた筆で着色部分を軽くこする、仕上げに筆ペンで輪郭をつけるといった手順で作品を完成させました。それぞれ色鉛筆や筆の扱いが上達してきており、濃淡を使った表現ができるようになってきています。今回も絵手紙風で個性豊かな作品が仕上がりました。(宮川)



絵手紙風のとんぼ

中学生 音楽でハンドベルの練習をしています。使用しているベルは振って音を出すだけでなく、柄の先を押すことでも音が出るため、子どものスキルに合わせながら指導しています。ベルの音は余韻が残るため、どのタイミングで音を出せばよいか苦戦していましたが、徐々にタイミングよく音を出せるようになってきており、きれいな旋律を演奏できています。(宮川)



きれいな音を奏でよう

ラーニングプログラム 「昨日、今日、明日」についての理解が曖昧な子どもをよく見かけます。そこで、日にちの呼び方や感覚をつかみやすくするために、カレンダーを使って指定された日(今日)に対する明日と昨日に答える学習をしました。特に、数値的な理解が得意な子どもには、今日を基準に数がひとつ増えたら明日、ひとつ減ったら昨日というように学習させると理解が進みました。(久留)



明日は…?



コラム 障害児教育について (2)

武蔵野東の子たちとの出会い

先日お誘いをいただき学園祭に出席して小学1年生から6年生の劇を見せていただきました。それぞれの子たちがそれぞれの力で自分の役目を元気に果たしている様子がよくわかりました。併せて観劇されているご家族の皆さんの温かいまなざしの一体感をしっかりと感じる事ができました。武蔵野東の子どもたちのことはボストンに行く少し前、テレビ放映で初めて目にしたのですが、その番組での子どもたちの日々変わる様子をまざまざと思いだしました。

私は秋田大学への赴任をきっかけとして自閉症を研究テーマとするようになりました。秋田で自閉症の子たちの脳波記録を始めましたが、拘束を嫌う自閉の子たちではなかなかきれいな記録がとりにくく、またいわゆる高機能の子たちと出会うチャンスは限られていました。テレビで話題となっている武蔵野東学園が友人の勤務する国立特殊教育総合研究所(現独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)分室と隣接している(現在の北

原記念館の位置にありました)ということを知り、先ずはこの子たちの脳波を記録させていただきたいと考えました。秋田から機材を運び記録を始めたところ、私の自閉症イメージは変わってしまいました。

当時は医療現場でも自閉の子の臨床脳波は眠らせて取るというほど困難でしたが、武蔵野東の子たちは目覚めたままでも協力的でした。多くの自閉の子たちが苦手とする集団行動や長時間の拘束を伴う脳波記録に、武蔵野東の子どもたちがなぜ素直になじめるのか、私にとっては不思議でした。しかし、いくつかの可能性も推測されました。その一つは保護者・家族の方々の自閉の子たちへの向き合い方です。記録の合間に行わせていただいた保護者の方からの聞き取りでは、こだわりやコミュニケーションの取りにくさへの困惑は当然のように語られましたが、同時にそれを個性として受け止める、ある種のゆとりも感じられました。そのゆとりの背景に先日の学園祭でのご家族の皆さんの温かいまなざしの一体

谷口 清(文教大学教授)

感と同じものを感じて、「ああ、なるほど」と思いました。

温かいまなざしやゆとりの背景に武蔵野東の混合教育や北原キヨ先生の生活療法があるのは疑いなくところですが、一体それがどのように自閉症教育に有効なのか、それは今後に向けても大事な問題です。混合教育は自閉症に限っては世界に先駆けたインクルージョンの営みといえるでしょう。混合教育と生活療法は表裏一体ですが、それはそれぞれの子の自閉性をあるがままに受け止め、それとどう折り合いをつけるかということと理解しています。自閉的行動の特徴をあるがままに受け止めるのは難しく、折り合いをつけるには格闘が生じますが、先生たちはその困難に立ち向かい、北原先生の精神と教育方法をしっかり受け継ぎ、守り育てていただいているのだと思います。またそれを信頼し、温かく見守る保護者集団、それを受け止めるコミュニティと文化(インクルージョン)が確かに存在すると感じさせていただいた学園祭の一日でした。

このコラムは4回シリーズでお届けしています。

ホームカミングデー 2018

11月23日にOB・OGとご家族を迎えてホームカミングデーを開催し、多くの方に参加いただきました。久しぶりに再会した友だちやスタッフとカラオケやドッジビーで楽しい時間を過ごしました。毎年11月23日(勤労感謝の日)に開催しておりますので、OB・OGの方は是非ご参加ください。



武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: <http://www.musashino-higashi.org>

2019年度療育プログラム申し込み

2019年度療育プログラムの一次募集を行っています。受講希望の方は申込用紙またはウェブサイトのフォームにて2018年12月11日(火)までにお申し込みください。詳しい資料を希望の方は、お電話かウェブサイトのフォームでご請求ください。ご相談や見学も承っております。